令和 6 年度創造都市ネットワーク会議（総会） 開催報告

創造都市ネットワーク会議（総会）は、創造都市の取組を推進する（または推進しようとする）地方自治体等多様な主体を支援するとともに、国内及び世界の創造都市間の連携・交流を促進するためのプラットフォームとして設立された「創造都市ネットワーク日本（CCNJ）」の総会として開催し、当年度の事業報告や次年度の事業計画、今後の目標等についての審議を行う会議である。

【全体概要】

□今年度の創造都市ネットワーク会議（総会）はオンラインで開催し、当年度の事業報告と次年度の事業計画（案）について審議を行った。

□松本徳氏（高松市創造都市推進局産業経済部産業振興課長）、児玉大輔氏（文化庁参事官生活文化創造担当）の開会挨拶後、事務局より CCNJ の設立経緯や新規ビジョン、運営体制等の説明があった。

□議案審議は、事務局から各議案（第 1 号議案：令和 6 年度事業報告について、第 2 号議案：令和 7 年度事業計画（案）について）の説明が行われ、事前議決（電子投票）で賛成多数、により、全議案が承認された。

□第 1 号議案（令和 6 年度事業報告について）では、各部会の事務局から追加報告があり、第 2 号議案（令和 7 年度事業計画（案））でも、次年度の各部会の事務局から挨拶や予定等の説明があった。

□議案審議終了後、昨年度の総会以降に新規に加盟された 3 つの自治体が紹介され、宇和島市からの挨拶があった。

□最後に CCNJ 顧問の佐々木雅幸氏が総括した。

開催日時	令和 7(2025)年 2 月 14 日（金）13:00～14：30
開催方法	オンライン開催（ZOOM ミーティング）
主　　催	高松市（代表幹事）
共　　催	創造都市ネットワーク日本（CCNJ）、文化庁
参加自治体・団体数	62 構成団体（自治体：57 団体、自治体以外の団体：4 団体、個人会員 1 名）
議決方法	事前に議決の電子投票を実施　全回答数 128　過半数 64
プログラム	□開会挨拶 ・松本徳氏（高松市創造都市推進局産業経済部産業振興課長） ・児玉大輔氏（文化庁参事官生活文化創造担当） □議案審議 ・第 1 号議案　令和 6 年度事業報告について ・第 2 号議案　令和 7 年度事業計画（案）について □その他 □CCNJ 顧問による総括

	・佐々木雅幸氏(CCNJ 顧問) □事務局からの連絡

【松本徳氏（高松市創造都市推進局産業経済部産業振興課長）の挨拶要旨】

・本年度から本ネットワークの代表幹事を務め、文化庁の皆さま、佐々木雅幸顧問をはじめ、関係の皆さま方の協力を得て、幹事団体会議の会議や、研修セミナー、政策セミナーなどを開催することができた。

・本市は平成 24 年から創造都市推進局を設置以降、10 年以上にわたり『創造都市高松』を推進してきた。今年の 4 月には、その取り組みの一つである、『瀬戸内国際芸術祭 2025』が開幕する。また、本年度からは、ユネスコ創造都市ネットワーク(UCCN)に音楽分野で加盟申請を進めており、本市における創造都市をさらに推進している。そして来年度、本市にて本ネットワークにおける創造都市政策セミナーを開催予定である。

・本日は、本年度の活動内容や来年度の事業計画案等について説明させて頂き、来年度も、代表幹事として、CCNJ のビジョンの達成に向けて誠心誠意取り組んでいきたい。

【児玉大輔氏（文化庁参事官生活文化創造担当）の挨拶要旨】

・本ネットワークにおいて文化庁では、皆さま方の活動に対する支援を行うことにより、全国的、または広域的なネットワークの充実・強化を図るとともに、地域の文化芸術資源を活用した取り組みを活発化させるなど、わが国における文化芸術創造都市の取り組みを推進していくため常に皆さま方と歩みを共にしてきた。

・本年度は、CCNJ と UCCN(ユネスコ創造都市ネットワーク)の連携の第一歩として国際ネットワーク部会と UCCN の国内都市会議の合同会議が実現したことが大きな成果である。

・文化芸術推進基本計画(第 2 期)において、地域における文化芸術振興拠点の整備・充実を、目標の一つとして掲げ、文化芸術創造都市施策に取り組む地方公共団体等による全国的・広域的ネットワークの充実・強化を図ること、ユネスコ等の国際的な都市間のネットワーク等を生かした交流を図り、文化芸術の持つ創造性を地域振興、観光・産業振興等に活用し、地域課題の解決に積極的に取り組む活動を促進することをうたっている。

・これらの目標を達成するために、創造都市として文化芸術を通じた地域振興の先頭を走る皆さまと共にわが国が文化芸術立国となるべく、その実現を目指した取り組みを進めていきたい。

【令和 6 年度各部会事務局の追加報告要旨】

①現代芸術の国際展部会

横浜市：

・今回の第 8 回横浜トリエンナーレ期間中に 2 部制にて開催、1 部では横浜市トリエンナーレ総合ディレクターの蔵屋美香氏より、『第 8 回横浜トリエンナーレの取り組み』をテーマに基調講演を行い、その後『アートが心にもたらす効果』というテーマでクロストークを開催した。

・第 2 部の担当者ミーティングでは、各自治体が課題感を持っている事業評価の取り組みについて深く意見交換ができ非常に有意義な会であった。

②創造農村部会

丹波篠山市：

・本年度は全 3 回実施し、第 1 回目はオンラインで部会員のみ参加のクローズ形式で東京工業大学の真田純子教授に『都市と農村の真に幸せな関係とは』をテーマも基調講演を行って頂き、その後部会員内にてこれからの農村の過疎化対策について意見交換を行った。

・第 2 回目は、真庭市において部会員以外の自治体も参加可能なハイブリッド形式で開催し、NPO 法人共存の森ネットワーク理事長の渋沢寿一氏に登壇いただき、『真庭ライフスタイル』と『里山資本主義』と題した基調講演を行った。その後のトークセッションでは、渋沢寿一氏と CCNJ 顧問の佐々木雅幸先生、真庭市の太田昇市長の 3 名によるクロストークを行い、真庭市の先進的な木質バイオマスの紹介の他、災害時の復興についても、創造都市政策がきく寄与するものだということを再認識した。

・第 3 回目は、オンラインで部会員のみのクローズ形式で開催し、本年度部会の振り返りと、来年度の創造農村部会の開催内容検討を行った。第 3 回目の部会開催後に長野県御代田町様から、創造農村部会への参加届を提出頂き、令和 7 年度は 6 市町で活動していく。

③国際ネットワーク部会

京都市：

・1 月 16 日から 2 泊 3 日で、丹波篠山市様と神戸市様で UCCN との合同会議を開催し都市間の連携や分野間の連携をテーマに連携の必要性やニーズ、課題について議論した。

・UCCN 国内会議と合同開催の結果、参加者が大幅に増え国際ネットワーク部会の設置目的でもある都市間の連携や交流、情報交換がしっかりできた。

【令和 7 年度各部会事務局の補足コメント要旨】

①現代芸術の国際展部会

横浜市：

・令和 7 年度の現代芸術の国際展部会については、政策セミナーとの同日開催を検討している。

②創造農村部会

丹波篠山市：

・資料には開催地未定となっているが、第 2 回の開催地は現在、北海道東川町開催で調整中である。また、令和 7 年度からは長野県御代田町様に参画いただき 6 市町による活動予定である。

・創造農村部会ではないが、先月の国際ネットワーク部会と UCCN の国内会議の合同会議では、参加団体の皆様に丹波篠山市まで来ていただきお礼を申し上げる。3 日間というボリューム感のあるスケジュールであったが大成功に終わった。

③国際ネットワーク部会

京都市：

・来年度の国際ネットワーク部会については、本年度同様に 1 回の開催予定で開催都市については検討中である。
・開催内容については、先般の合同会議参加者アンケート結果を踏まえながら今年度同様に UCCN 国内会議との合同会議も視野に入れつつ検討したい。

【新規加盟都市の挨拶要旨】
宇和島市：
・宇和島市は愛媛県の南に位置し、多種多様なかんきつ類をはじめ、日本有数の生産量を誇る真珠や養殖の鯛や鰤など全国トップクラスの食資源を持っている。また、現存 12 天守の一つに数えられる宇和島城をはじめ、最近では重要伝統的建造物群保存地区に『津島町岩松の町並み』が指定されるなど観光資源も多い地方都市である。
・本市は、写真を切り口としたアートやデザインの力を用いた地域の魅力発信を、平成 31 年から取り組んでいる。『宇和島百景プロジェクト』では、市民の皆さまから投稿された写真の中から選ばれた作品を『宇和島百景』として認定しており、毎月の広報誌やホームページ上での公開や令和 6 年 11 月には初めて大型のメッシュ素材に写真をプリントして屋外に展示もした。
・また、来年度は、写真をテーマとしたトップアーティストによる企画展も検討している。さらに秋に、約 1 カ月間のパブリックアートの設置を予定しており、アートと多様な企画の融合をもたらせてにぎわいを創出し、市民の皆さまをはじめさまざまな分野の方たちと協力して魅力あるまちづくりを行い、発信し、市内外の方にも興味を持っていただけるよう取組をしている。

【佐々木雅幸氏（CCNJ 顧問）の総括要旨】
・本年度の CCNJ 活動は、創造都市ネットワークの本来の活力である大小さまざまな自治体がフラットに多様な文化事業で競い合うプラットフォームとしての姿を完全に取り戻し新型コロナウイルスの 4 年間の一時的な停滞を完全に脱却した。
・印象に残った取り組みを順にあげると、まず横浜市が創造都市 20 周年という画期を迎え、横浜市立大学の鈴木伸治先生を中心とした創造都市スクールを春と秋に開講した。これは CCNJ と連携し、充実した取り組みであった。
・創造農村部会の第 2 回開催では、真庭市がこれまで環境政策で成果を上げてきたものを土台にして、「森の芸術祭 晴れの国・岡山」という周辺自治体や JR 西日本と連携した新たな成功事例も生み出した点では、画期的な出来事だった。
・国際ネットワーク部会と UCCN(ユネスコ創造都市ネットワーク)国内会議の合同開催については、一昨年、岡山市が文学の領域で加盟したことで、七つのジャンル全てで日本の創造都市が加盟を果たし、ユネスコ創造都市の世界的な広がりとともに東アジア文化都市の可能性を感じることができた。さらに CCNJ の幹事代表である高松市と政策セミナーを開催された越前市は、ユネスコ創造都市の加盟に向けてチャレンジされ、国内外の創造都市活動のプラットフォームとして充実した中身になってきている。
・今後の取り組みの方向性については、一つは、外部の有識者のコメントも交えながら CCNJ アワードのような形で、表彰して優良事例を作り出すことでことが考えられる。次に、世

界的にクリエイティブツーリズムという動きがありますが、新規加盟自治体を増やす意味でも、各地の創造都市の実績を鑑賞するツアーを新事業として検討することも考えられる。

・いずれにしても、CCNJ(創造都市ネットワーク日本)は設立して 10 年を越えて、次のステージに向かって皆さんで知恵を出しながら前に進んでいきたいと考える。